

できるか



朝、元気に家を出ていった娘が、夕刻には無残な姿で横たわっている。東京都三鷹市で起きたストーカーによる殺人事件は、朝に警察へ相談に行ったその日のうちに起きた「8時間の悲劇」だった。

犯行が行われた8日の、高校3年生の鈴木沙彩さん(18)の動きを、関係者の話をもとに追つてみよう。

午前9時ごろ、沙彩さんは両親と三鷹署を訪れ、以前に交際していた無職池永チャールストーマス容疑者(21)の名前を伝え、「待ち伏せされている」と訴えた。

両親の訴えを受け、三鷹署は池永容疑者に3回電話したが、つながらなかつたため留守電にメッセージを残した。

三鷹署は京都市から、時々、上京して会っていたという。そんな2人は、昨年秋、沙彩さんがアメリカへ留学することになり、それを契機に別れた。留学中は連絡を取り合っていなかったというが、今年3月に沙彩さんが帰国すると、池永容疑者が頻繁に復縁したいという内容のメールや手紙が届くようになった。一方、沙彩さんは池永容疑者を避けるようになり、今年6月には池永容疑者からの電話やメールを着信拒否した。

その数分後、池永容疑者が犯行に及んだ。逃げる沙彩さんを追いかけ、自宅玄関先でナイフで刺し、さらにもう一人の女性を刺して、沙彩さんと池永容疑者は、自宅前路上で刺した。馬乗りになつている姿を近くの人が目撃している。

どうして、東京に住む高校生と、京都の無職男性が知り合ったのだろうか。沙彩さんと池永容疑者は、

2011年秋、フェイスブックで知り合つた。SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)のひとつで、スマホで簡単にアクセスでき、見知らぬ相手とチャットできる機能も備わっている。沙彩さんは、池永容疑者と知り合つた直後から交際を始めた。池永容

2011年秋、フェイスブックで知り合つた。SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)のひとつで、スマホで簡単にアクセスでき、見知らぬ相手とチャットできる機能も備わっている。沙彩さんは、池永容疑者と知り合つた直後から交際を始めた。池永容

帰宅直後、沙彩さんに三鷹署から電話が入る。「無事に家につきましたか」(三鷹署の署員)
「はい、大丈夫です」(沙彩さん)
その会話をクローゼットの中でも、池永容疑者は聞いていたという。

その数分後、池永容疑者が犯行に及んだ。逃げる沙彩さんを追いかけ、自宅玄関先でナイフで刺し、さらにもう一人の女性を刺して、沙彩さんと池永容疑者は、自宅前路上で刺した。馬乗りになつている姿を近くの人が目撃している。

沙彩さんと池永容疑者は、京都から夜行バスで

上京し、到着後すぐにナイフを購入した。そして、今月1日、沙彩さんの自宅周辺に突如として、姿を現したのだった。

沙彩さんの住む、三鷹市の頭の自宅周辺では、近所の男性(23)が2人らしきカップルを見たと、こんな話をした。

「事件の2~3日前、近所の公園で、学生服を着た女子高生が男に『もう、つきまとわないで』と怒鳴っていた。男の身長は女子高生より10センチか20センチ高かつた。男はどちらかというと、受け身な感じでした」

実は沙彩さん、犯行の4日前に、担任の先生にストーカーされているという相談をしている。そこで、担任が杉並署に相談していたのだった。しかし、杉並署は、「自宅周辺で付きまとわれているなら三鷹署へ行つたほうがいい」と、だらり

対するストーカー行為がエスカレートしていったのは、9月に入つてからだ。9月27日に京都から夜行バスで

犯行の4日前と当日朝、家族や担任が警察に相談しても防げなかつた今回の凶

警察が動かないとき 親は何が



行。警察が動かない場合、

親としては、いつたいどうすればいいのだろうか。

探偵社「プライベート・

シャドー」代表の坂井利行

さんは、「可能なら、即座に引っ越

しをすることを勧めます」

と言う。三鷹市の事件の

ように住所が知られていれば、いつ襲われるかわから

ない。警察への相談も、ま

ずは避難して身の安全を確

保してから、が鉄則だ。引

つ越しするのが難しければ、

自宅から離れた親戚や友人

の家に一時避難するのでも

いい。

ただ、無事に転居した場

合も安心するのはまだ早い。

念のため、住民基本台帳の

閲覧に制限をかけるように

しよう。加害者が配偶者の

場合など、個人の住所など

が記された住民基本台帳を

市区町村の窓口で見ること

ができる。制限をかけるに

は、警察でつくった書面を

市区町村に提出すればいい。

ストーカーから 専門家が5つのアドバイス

孫をやめ守る5カ条

- ①一人暮らしであれば引っ越しさせる
……自宅で引っ越しが難しい場合は、親戚宅などに一時避難することも検討

- ②住民基本台帳の閲覧制限を申し出る
……加害者が配偶者の場合は特に必要。転居しても新住所が知られるところ

- ③被害者を一人にさせないようにする
……複数でいればストーカーをけん制できる。

- ④「地域力」でストーカーを監視する
……近所の目と手をできるだけ多く借りる。
被害者他人に話すこと躊躇しない。

- ⑤実効性のある護身グッズを身につける
……スタンガンや催涙スプレーが女性にも人気。
防犯ブザーだけでは心もとない

ストーカーから

- 「人けのない場所を一人で歩かせるなどもってのほかです。学校への送り迎えをしてもらうなど、常に誰かと一緒にいるようにします」と話す。

最後は防犯グッズだ。最近では防犯ブザーを配布する自治体もあるが、深刻な状況で頼りになるのはブザーよりも強力な「武器」である。防犯グッズを専門に扱う「KSP」(福岡県福津市)は、ストーカー被害をことは必須。さらに、近所の住民の力も借りたいところだ。関西国際大の桐生正

教授(犯罪心理学)は、「ブザーが鳴っても、誰か

専門家のアドバイスなどをもとに、編集部が作成

が駆けつけてくれるとは限りません。自らの身を守るために、最近多くの女性が購入されるのが催涙スプレーです。価格は6千円程度で、射程距離は無風で5メートル、風があつても3メートルになります。目に入ると3~4時間は見えなくなります」(店主)

後ろから羽交い締めにされた場合などはスプレーは使いにくい。そんな場合にはスタンガンが威力を發揮する。価格は2万円程度。バッグにも入る、たばこの箱サイズのタイプが人気だという。物騒なものを娘に持たせたくない、という親心もあるが、命には代えられないだろう。心もあるが、命には代えられないだろう。

前出の桐生教授はこう強調する。

「最近のストーカー行為には、『ルール』というものが当たはまりません。警察はもちろん、被害者の側も、考えられる限りのリスクマネジメントで身を守ることが求められます」

本誌・坂井浩和、上田耕司